

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

■※1:平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、平成30年4月自己点検委員会で確認した。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
重点目標	1. 基本方針	○本校の修業年限の拡大や働き方の多様化などの変化に応じて、2-40という言葉に込めた意味とイメージに矛盾がないようにすることが望まれる。	新規	校長	■現状は「2-40」の名称が定着しており、学外向けの入学案内書等でも次年度に向け広報しているため、当面は変更の予定はない。機会を見て、改めて検討したい。
	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPCの育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ○教科指導においてはアクティブラーニングなどの導入により、年々着実に前進が見られるが、入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外におけるTPCの指導にさらなる工夫が求められていることから、教務委員会や学生委員会を中心とした取組に期待したい。	継続	校長	■授業外でのTPCの指導については、引き続き教務委員会や学生委員会を中心に具体的な取組を推進する。
			新規	教務委員会	■各学科ごとに実施される入学時オリエンテーションに繋がる試みとして、30年度AO入試による入学生に対して、入学前スクーリングを実施した。この結果を検証して、効果が実証されるようであれば、AO入試以外の入学生に対しても拡大する方向で検討する。
			新規	学生委員会	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらおう。 ■体育祭と学園祭では、学生に役割と可能な部分の裁量権を与え、主体的に動き、創意工夫ができるようにする。
(2)退学防止	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○また、表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫も進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	校長	■年度初めに数値目標を示した上で、記録の整理・分析と情報共有をしっかりと行い、引き続き退学防止のための活動を推進する。	

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
		○新たに計画しているAO入試による入学予定者への入学前の課題と、入学前指導や面談を行うことの効果に期待している。	継続	校長	■AO入試による入学予定者への入学前オリエンテーションの実施結果を踏まえ、AO入試以外の入学者に対しても入学前の指導を拡大して実施することを検討する。
			新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			新規	医療秘書科	■入学時ミスマッチを解消するため、作文や面談等における入学動機の確認を慎重に行う。 ■入学前指導プログラムにおけるスクーリングを最大限活用し、AO入試による入学予定者と教員、在校生とが関わり合い、距離感を近づけるとともに、学習導入の円滑化を図る。
			新規	医療マネジメント科	■平成30年度生に対して実施した入学前指導プログラムの効果を検証し、改良を加えながら引き続き実施する。
			新規	診療情報管理専攻科	■具体的な取り組みについて、特に必要としていない。
			新規	医師事務技術専攻科	※記述不要
			新規	くすり・調剤事務科	■AO入学前オリエンテーションの内容を工夫して学科のことも理解を深めて退学防止に役立てていく
			新規	介護福祉科	■AO入試入学予定者について今後もテーマを検討し、介護教育への導入としていく。 ■AO入試入学者が入学前とのミスマッチがないよう、入学後も面談等をしていく。
			新規	鍼灸医療科	■H 30年度生AO入試入学予定者に対し、入学後の授業を反映した内容に変更し実施している。入学後は検証を行う。 ■入学後は面談を実施し、ヒアリングを参考にしながら学生対応に当たる。
			新規	看護科	■指定校及び公募推薦での合格者はAO入試の入学前プログラムに参加させていただく。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
	(3)教員研修	<p>○本校では、教員のインストラクションスキル(教授力)向上に向けた取組は、教務委員会による学内研修会を年2回開催しており、平成28年度はアクティブラーニングとコーチングをテーマとした研修会を開催している。また、学内は勿論のこと、学外における研修にも積極的に取り組んでいる。継続が望まれる。</p> <p>○授業公開については、試行錯誤を繰り返しているが、平成28年度は教務委員会が所管し、10月の指定2週間における常勤教員の授業をすべて公開することを原則として実施し、前年度を大幅に上回る参観者数となった。定着に向け更なる工夫に期待する。</p>	継続	教務委員会	<p>■年2回の学内研修会は教職員のアンケートなども参考にしながら、より要望が高く、かつ教員のインストラクションスキルの向上に有効なテーマを取り上げ、継続して実施する。</p> <p>■3月15日の教職員全体会において、1月に一部教員が受講した外部研修「教職員のための中途退学防止戦略」の伝達研修を行い、全教職員での情報共有を行った。有用な研修について内容を全員で共有していく仕組みの構築に繋がる第一歩となった。</p> <p>■外部研修への参加を促進するため、外部研修受講補助費を創設、運用開始したが、より使いやすいシステムにするために運用基準、細則を精査し整える。</p> <p>■授業公開については、原則として学校全体での2週間の一斉実施を継続する。ただし、看護科に関しては、実習の多い教員に配慮したより参観しやすい仕組みを検討する。前・後期の隔年実施とし、30年度は後期実施を目指し、準備する。</p>
1 教育理念・目的・育成人材像	1. 理念・目的・育成人材像	○本校が目指す人材の育成充実に向けて、学科再編等の検討を引き続き進めてほしい。	継続	校長	■必ずしも高校新卒者を対象とした専門課程の教育に限定せず、本校の強みを生かせる新規の教育事業の実施を具体的に検討する。
		○また、各学科における3つのポリシーの再確認をしっかりと行って、引き続きそれぞれの教育を進めて欲しい。	継続	校長	■学科ごとに三つのポリシーの再確認はされつつあるので、30年度はそれに基づく具体的な計画を推進する。
			新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			新規	医療秘書科	■全教員が3つのポリシーを理解し、授業をはじめ教育活動全般、同じ方向性を持って取り組む。
			新規	医療マネジメント科	■引き続き、学科運営計画に基づき、明確にし実施する。
			新規	診療情報管理専攻科	■元来、目標・目的が明確な学科であり、前年度までの方針を継続しつつ学科運営計画を策定し、それに基づき実施する。
			新規	医師事務技術専攻科	※記述不要
			新規	くすり・調剤事務科	■多くの授業にカンフェランス形式を取り入れ、生徒が主体的に考え、積極的に討議に参加することを通して、考える力、積極性、対話力の向上、育成を図っている

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			新規	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科の3つのポリシーを教員間で再確認し、教育の向上を目指していく。 ■「介護福祉士養成の到達目標」達成を目指し、知識・技能・態度の観点から、2年次に振り返りをし課題を挙げ、次の目標「求められる介護福祉士像」を目指せるよう指導をしていく。
			新規	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■3つのポリシーについて、4月の学科会議や日々の担任会にて教員間でしっかりと情報共有と確認を行い、1年次からの学生指導の強化を図る。
			新規	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■3つのポリシーを国家試験合格に導くための教育方法に具体化させていく
	2. 育成人材像と業界等の人材ニーズへの適合	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■医療機関従事者からの特別授業等を開催し、学生個々の職業観醸成を促す。 ■医療機関を見学する機会を学生に提供し、その役割や業務、職種等を理解させ、学習意欲を喚起する。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■実習指導者、採用担当者、病院職員・業界職員である特別講演講師・兼任講師、卒業生から情報収集する。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■管理士実習指導者、採用担当者、病院職員・業界職員である特別講演講師、卒業生から情報収集する。
			継続	医師事務技術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■企業、協会と共同作業の提案を見据えながら、今後も緊密にコンタクトを継続していく
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■業界と連携し、最新の介護の動向や情報を知り、カリキュラム編成や、授業に反映していく。また、業界に協力をいただき特別講義等を通して授業の充実を図る。 ■31年度医療的ケア実地研修実施に向け実習先の医療機関と連携し準備を進める。
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■専門分野の学会や研修会に積極的に参加し、そこで得た情報や動向について教員間で共有し、授業等にも反映させる。 ■鍼灸分野以外でも連携して活かせる分野をカリキュラムに導入し幅広い鍼灸師を育成する。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■1年生:2週毎のホームルームの時間に各自医療に関して興味・関心を持った事を調べまとめて行く、3月にクラス内でプレゼンテーションを行う。また国試過去問題小テスト実施。 ■2年生:後期の各実習カンファレンスを自己の職業観を醸成するリフレクションの機会とする。 ■3年生:年間を通じての実習から職業人としての意識の醸成をはかる。看護研究、看護観の発表。
	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程の編成	○カリキュラム編成における職業実践教育の視点、PDCAサイクルによる編成プロセスを維持してほしい。	継続	校長	■引き続き職業実践教育の視点から、PDCAサイクルによる改善を推進する。
			新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■実務において必要とされる応用力を身につけるための基礎力定着を意識した授業進行を心がける。 ■地域包括システムを理解する初期段階として、「介護保険の基礎」を科目新設する。 ■31年度カリキュラム内容を検討する。
			継続	医療マネジメント科	■教育課程編成委員会、業界団体、病院実習指導者の意見を、カリキュラム策定、授業運営、教員研修に反映させる。
			新規	診療情報管理専攻科	■日本病院会によるカリキュラムを最重要視し、主にそれに基づいてカリキュラムを策定、実施する。
			継続	医師事務技術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・調剤事務科	■年2回の非常勤講師との科会を通して、カリキュラムの検証、見直しをしている。また、協会との打ち合わせを通して時代の流れに沿った内容の教科も検討している
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■昨年度、実習施設と学生に「実習に関するアンケート調査」を実施した。分析した結果が実習に活かせるよう施設、学校と連携をとり、介護実習の向上を図る。 ■教育課程編成委員会での意見を参考にし、31年度カリキュラム編成や授業、実習の整備をしていく。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	看護科	■来年度に向けては、学生の成長を見据えたカリキュラムポリシーを再構築するため、戦略的な会議を設け、何をどのように学ばせたら良いか教員間で意思統一を図っていく。
		■コマシラバスについて、医療事務教科系研究会での検討は進展が見られなかった。検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を、引き続き学科や教科系に働きかけたい。	継続	校長	■検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を、引き続き学科や教科系に働きかける。
			継続	医療事務教科系研究会	■コマシラバスについて、有用であるか今後検討する。現段階では、学科ごとに担当教員間で授業進捗状況や学生の到達度を確認、微調整を行いながら進めている。
	(2)教育課程への外部意見の反映	○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査が改めて望まれる。	新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	■卒業生ネットワークを有効に活用し、卒業年次毎に評価確認の準備をする。 ■各種委員会をはじめ、実習先や見学先からの情報を継続して収集し改善に努める。
			継続	医療マネジメント科	■求人・就職先、専門分野で就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。
			新規	診療情報管理専攻科	■求人・就職先、管理士実習先、診療情報管理士として就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。
			継続	医師事務技術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・調剤事務科	■2年に1回開催されるいちご会(学科同窓会)に出席した卒業生への聞き取りをしている(次回は平成31年2～3月の開催を予定) ■また、企業との打ち合わせの際には、求められる教科や教科内容などをヒアリングしている
			継続	介護福祉科	■31年度カリキュラム内容の見直しが予定されている。内容が決定次第、編成に取り掛かる。 7月に予定されている教育課程編成委員会での意見も反映させる。 ■卒業生が来校した際や、卒業生懇談会、懇親会において、施設の最新情報を把握し授業に反映していく。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■平成30年度のカリキュラム改編では、国家試験の合格率アップに繋がるよう科目設定、開講時期を考慮し作成している。一方で、鍼灸師像として、広い視野を持った人間力が就職先ではもともとめられており、学びの場として、学外見学実習先を多く確保できている。 ■卒業生支援講座や学科交流イベントの機会をとおして、卒業生からのヒアリングの場としている。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度のホームカミングdayについては今年度同様に実施する予定。退職防止につなげるべく、採用施設との連携はかかっていく。
			継続	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■実習先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を実施する。 ■3月中旬に行う27年度生のGメールでの調査結果の検証を行う。
(3)キャリア教育の実施		○キャリアサポートプログラムは、平成28年度からはキャリアサポートセンター(CSC)と進路指導協議会が連携して、教育課程編成委員会や本委員会の意見、提案なども参考に、時代の変化に即し、学生が取り組み易く、積極的に関われるという観点を踏まえた改編を開始している。更なる取組に期待したい。	継続	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■協議会を通じて各学科と連携し、学生が取り組み易く、積極的に関われるようキャリアサポートプログラムの内容の見直しを行い、また医事系求人の早期化等の対策も行う。
			継続	進路指導協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■協議会を通じて各学科と連携し、キャリアサポート関連の諸課題について検討する。
(4)授業評価		○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度改訂を適切に実施していくために、課題の発見と点検、改善を行う。 ■速報をより効果的にするために、自由記述の確認及び配付日などの微調整を行う。 ■集計結果へのコメント記述について確認し、進め方を検討する。
3. 成績評価・単位認定等		○在校生のコンテストや研究発表における受賞は、本校教育の成果を表すものであることから、積極的にアピールすることを引き続き進めてほしい。	新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■校内もしくは学科内で学習成果を発表する場を用意する。 ■コンテストとは異なるが、検定試験実施団体からの成績優秀賞を今後も継続して受賞できるよう、基礎力、応用力を身につけるための授業を継続する。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■具体的な取り組み方については、今後、検討する予定である。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	診療情報管理専攻科	■具体的な取り組み方については、今後、検討する予定である。
			継続	医師事務技術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・調剤事務科	■毎年、健康増進をテーマに入賞・表彰を目指して、1年生の「セルフメディケーションアワード」投稿を継続していく
			継続	介護福祉科	■12月にケーススタディ発表会を予定している。1年生も参加し意見交換をし双方の学びとしていく。 ■各実習後の実習報告会を継続していく。
			継続	鍼灸医療科	■3年生の臨床実習の中で、症例報告会を実施予定である。2年生も参加しカンファレンスを行う。 ■1年生の学外見学実習後にはレポート作成し、評価をする。
			継続	看護科	■3月6日(水)3年生の看護観発表に3学年合同で参加する。その際、3年生一人一人から後輩へのメッセージを伝えてもらう。
			継続	広報室	本年度は5日に1本の頻度でブログはアップしている。次年度についても同様の頻度でのアップを行っていく予定である。また、各学科の専門性や社会性に関する記事のアップを学科と協力してアップしていく。
		○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立と言われている。取入れやすい授業からの取組が望まれる。	新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			新規	医療秘書科	■グループワークを授業内においても取り入れ、まずは少人数の中で話す機会を意識的に設ける。
			新規	医療マネジメント科	■既に平成28年度生カリキュラムから強化している。今後、その効果について検証し、必要があれば改変しながら実施する。
			新規	診療情報管理専攻科	■既に1科目において実施しており、当面、それ以上強化する予定は無い。
			新規	医師事務技術専攻科	※記述不要
			新規	くすり・調剤事務科	■多くの教科の授業に、カンフェランス形式の授業を導入していて、それを通して、生徒に提案力、プレゼンテーション力を習得させている
			新規	介護福祉科	■グループワークで意見をまとめたり、個別に課題をまとめたりと科目により発表形式の授業が取り入れられている。内容に工夫を凝らし授業の向上を目指す。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			新規	鍼灸医療科	■平成30年度のカリキュラムより、1年次ではコミュニケーション学内でグループワークや発表の場を設けている。また外部臨床見学実習では、臨床現場を通して患者様とのコミュニケーションを直接学ぶ。 ■3年生は症例報告会での発表の場を設けている。
			新規	看護科	■各教科の中で効果的な演習の方法について意見交換していく。
	4. 資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。試験問題の傾向に合わせた受験対策指導の見直しを課題としており、新たな指導プログラムに期待している。	新規	看護科	■課題を整理し、自ら学ぶ力をつけて行けるよう、1年次からの取り組みを再検討する。 ■29年度不合格者7名という結果は残念ではあるが、指導方法を見直す与えられた機会として教員の意識を固める
			新規	鍼灸医療科	■受験資格要件は明確にし、文書で学生、関係者や保護者に対し配布している。 ■国家試験の問題分析後、各担当教科に反映していく。模擬試験の見直しについても実施している。 ■学生には、第1回目の模擬試験実施後から直ちに面談を実施し丁寧かつレベルに即した対応を実施していく。
			新規	介護福祉科	■国家試験対策でもある「福祉事務管理技能検定」の受験を6月、11月の2回を予定している。 ■国家試験対策科目を更に充実させる。対策講座、模擬試験受験、データ分析にも強化していく。
	5. 教員・教員組織 (2) 資質向上への取組	○今後は兼任講師にも参加を拡大するとしていることから、学校全体の取り組みとして定着することが期待される。	継続	教務委員会	■兼任教員の参加が増えるよう広報活動を工夫する。 ■学校全体の取り組みとして定着するよう29年度の活動を引き続き継続する。
	(3) 教員の組織体制	○常勤職員と兼任講師の情報交換を一層進めて、連携、協力により学校全体を良くする努力を今後も続けてほしい。その手段の一つとして、全体議論の場である学科教員会は授業期毎に開催することを提案する。 ■総評より： ○課題解決に向けた、入学前の学力と入学後の意欲や努力の相関に基づく活動にも、兼任講師を巻き込んだ取組が求められる。	継続	校長	■なるべく多くの兼任講師に参加していただくための日程調整は困難が予測されるが、学科教員会の開催を増やすことについて各学科に働きかけたい。各職業分野での人材ニーズが変化しつつある時代において、兼任講師の方々の協力は極めて重要と考えている。
			新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	■毎月、担任会を開催する。 ■学科教員会を定期的に開催する。 ■退学等学籍異動以外の事項に関しても常勤・兼任教員間での意見交換の場を増やす。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	医療 マネジメント科	■担任間の打合せ、兼任講師との情報交換・共有、兼任講師への学科方針の徹底等により、学生指導、授業運営、検定対策を円滑に進める。
			新規	診療情報管理 専攻科	■学科長・担任・兼任講師による打合せ、情報交換・共有により、学生指導、授業運営、管理士試験対策を円滑に進める。
			継続	医師事務技 術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・ 調剤事務科	■年2回の非常勤講師との科会、ならびに、非常勤講師の授業日出勤した際に意見交換、情報交換などを継続していく
			継続	介護福祉科	■定期的に学科内会議を実施し、学生の状況を把握し、情報の共有を図っていく。 ■兼任講師とも情報の共有と授業進捗状況の確認をしていく。
			継続	鍼灸医療科	■鍼灸医療科の教員全体でメーリングリストを作成している。適宜、情報の共有を図っている。また、授業日には担任が中心となり専任教員と直接、対話を行っている。 ■4月の学科会議には参加率が低い為、学校としての原則、参加の義務化を検討する必要性を感じている。
			継続	看護科	■後期は専任教員と個人面談を実施する。その際授業公開、授業アンケートを活用して情報共有を図りつつ振り返りを行う。 ■引き続き定期的に実習施設の会議を開き、実習環境の調整を図っている。
4 学修成果	1. 就職率	○医療事務分野を中心に学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい	継続	CSC	■学生のコース、希望にあった求人確保・開拓を進めるとともに、個別面談・指導を徹底し、就職率アップに繋げていきたい。
	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取組と成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■各学科と教科系研究会等を軸に、これまでの取組と成果を検証しつつ、引き続き推進する。
			新規	字幕制作・ 速記者養成 科	※記述不要

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■2年生の診療情報請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて進度別クラス編成を継続実施する。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進度別クラス編成を継続実施する。 ■卒業時点での診療報酬請求事務能力認定試験合格者数の増加に努める。
			継続	医療 マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■現状を分析した結果、各年度毎に学科目標を設定している。学科目標については年度当初に各教員に徹底した上で対策を実施し、その結果について確認する。
			新規	診療情報管理 専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■前年度に引き続き、授業だけでなく、模擬試験の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験の資格取得をさせる。
			継続	医師事務技 術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・ 調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■非常勤講師と一緒に、試験対策講座の開催している、また必要に応じて個人指導も取り入れて合格率の向上を図っていく
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■6月23日・11月25日に福祉事務管理技能検定受験を予定している。 ■6月下旬、10月下旬、11月下旬に国家試験模擬試験受験を予定している。 ■個々の進度を定期的に確認し、個々に合った指導をしていく。 ■1月27日に国家試験受験を予定している。
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■平成30年度に向けて国家試験模擬試験の内容や外部模試の見直しを図った。引き続き比較検討を行っていく。 ■1, 2年生の取りこぼし教科をなくすため、成績不振の学生には早期に対応を行う。3年生には4月より空き時間を利用した学習の習慣付けとクラス別補講を実施する予定である。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■来年度に向けて、現役生の低学力者対策強化が必要。1年次よりサポート体制を構築していく必要があると考える。
			継続	医療事務教 科系研究会	<ul style="list-style-type: none"> ■年度末に課題の抽出をした。学科ごとに改善案を出し、対策を講じていく。 ■診療報酬点数改定に伴い、各種検定過去問題集のリニューアル作業を引き続き行う。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
	3. 卒業生の社会的評価	○本校卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、G-mail等による調査を進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続	CSC	■実習先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を実施する。 ■3月中旬に行う27年度生のGメールでの調査結果の検証を行う。
5 学生支援	1. 就職等進路	○新たに設けた進路指導協議会を通じて、各学科とCSCの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を進めてほしい。 ○また、CSC担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■実習先訪問や内定先訪問を通じて、より各業界の最新情報の収集を行う。 ■担当職員の研修へ積極的な参加を行う。また国家資格キャリアコンサルタントの未取得職員への取得を進める。
			新規	進路指導協議会	■協議会を通じて各学科と連携し、キャリアサポート関連の諸課題について検討する。特に医事系求人早期化等の対策も行う。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	学科長会議	■引き続き、「学籍異動の記録」、「退学防止の事例記録」、「欠席等届」を活用する。構成員間で報告、情報共有することにより、退学抑制対策の参考とする。
			新規	学生委員会	■退学防止調査票を前期2回、後期2回の4回、担任に提出してもらい、退学の予兆を早期に察知し、それを学科長にフィードバックし、退学抑制を図る。
			継続	広報室	■オープンキャンパスにおいて、教員、学生、卒業生スタッフとの懇談の時間を設け、見学者に対して説明を行う時間を設けている。また、広報室員が個別相談を受けるなど十分な説明ができるように心がけている。今後については、参加票において質問事項を記入してもらうなどの積極的な取り組みを行っていききたい。
			新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	■保護者説明会、オープンキャンパス等において、アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明する。 ■カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを明確に伝え、入学後、そして卒業後の自分自身をイメージしてもらえらる工夫をする。
			継続	医療マネジメント科	■学科紹介、説明会、懇談においては、学科全体についてのみならず、できるだけ学科の実像・実態を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらう。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			新規	診療情報管理専攻科	■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施する。
			継続	医師事務技術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・調剤事務科	■2回以上オープンキャンパスに参加して学科について十分理解をする、ならびに授業参観にも積極的に勧めており、ミスマッチ減少に役に立っている
			継続	介護福祉科	■オープンキャンパスでは、外国人留学生向けの学科説明を検討していく。 ■入学後のミスマッチにより退学者を予防するために、オープンキャンパスでは介護についての理解ができるよう丁寧な説明をしていく。
			継続	鍼灸医療科	■鍼灸師の職域や学びについて理解できるよう、平成31年度生に向けた学科スライドを新たに作成をした。 ■毎回のオープンキャンパスの中にミニ体験を実施し、鍼灸に対する理解を深める。
			継続	看護科	■看護学生スタートブック(藤井徹也著)が評判となって多くの看護大学、専門学校でテキストとして活用されている。当校も来年度は入学前及び入学後のオリエンテーションで活用していく方針。
	(1)経済的側面に対する支援体制	○緊急時における公的な制度と合わせた本校独自の支援などの経済的支援策については、国による新たな支援制度の進捗に合わせて、本校に可能な支援策の検討に期待したい。	継続	校長	■給付型奨学金など、現在、公的に整備されつつある制度と合わせた、在校生に対する本校独自の経済的支援策等を、具体的に検討したい。
5 学生支援	5. 保護者との連携	○保護者会は学科毎の課題となっているが、介護福祉科において開催が実現したことは一歩前進である。丁寧な説明や意見交換から生まれる安心感は本校教育の信頼に直接繋がるものでもあることから、引き続き検討を進めてほしい。	継続	校長	■本年度も4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けることにしている。入学後の保護者会等の開催は、各学科の個別の事情を考慮し、学科の課題として具体的に検討してもらいたい。
			新規	字幕制作・速記者養成科	※記述不要
			継続	医療秘書科	■出願前の保護者向け説明会で学科情報を伝え、理解を得る。 ■在学生の保護者会開催を検討する。 ■保護者への情報提供の内容や方法を検討する。
			継続	医療マネジメント科	■問題がある学生については、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。また、それらの実施にあたっては、引き続き個人情報保護を遵守する。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			新規	診療情報管理専攻科	■問題がある学生は稀少であるが、仮に発生した際は速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。
			継続	医師事務技術専攻科	※記述不要
			継続	くすり・調剤事務科	■いまのところ、問題のあるケースや問題のある生徒に限って保護者と連絡を取っていて、効果を上げている
			継続	介護福祉科	■6月の介護実習Ⅰに入る前に、1、2年生合同での保護者会を予定している。 ■保護者への連絡等は、電話連絡や、必要に応じて三者面談を実施する。
			継続	鍼灸医療科	■新入生オリエンテーションでは、毎年、保護者の参加を促しており、本年度も案内を送付済みである。 ■学園祭では1年生の保護者を対象に面談を平成30年度も実施予定である。 ■3年生の保護者には受験申込前に個別面談を実施しており、受験までの理解と協力をお願いしている。
			継続	看護科	■各学年担任を2名としているので、保護者及び該当学生と早期に連絡を取り合い指導を進めている。
		○また、成績等の報告についても個人情報の保護をはじめとした必要な対策をとった上で、実施に向けた準備を進めることに期待したい。	継続	校長	■保護者への成績等の報告については、主に高校新卒の入学者を対象に、学科ごとに検討することとなっている。
			継続	事務局長	■入学式における説明は、内容の見直しを行い学科長会議での確認を経て実施する。 ■成績等の報告は、送付対象の確認や送付方法とコストがネックとなっている。委員会でご意見をいただいたメールでできる情報提供等、実施障壁の低い部分から取り組みたい。
		○更に、今後は授業公開についても、教員研修としてだけでなく、保護者に子どもの勉強内容や学校の様子を見ていただくものと位置づけた取組として行うことも検討課題としてほしい。	新規	校長	■保護者会の実施と併せて開催することを検討したい。
6. 卒業生・社会人		○卒業後の相談とフォロー体制の充実は、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○卒業生支援講座については、卒業生のニーズ把握に着眼点があると思われるので、G-mailなどを使っての調査やPR方法を工夫して参加者の増加を図ってほしい。	継続	校長	■卒業生支援講座については、キャリアサポートセンターを中心に、G-mailなどを活用して卒業生の学びのニーズを把握し、教務委員会(卒業生支援・卒後研修担当)、校友会事務局等が連携し、講座企画の具体化を図る。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
			継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも求人状況提供や就職相談など積極的に対応していく。
			継続	教務委員会	■卒業生支援講座に関しては、企画、運営には委員会として引き続き協力する。29年度より校友会が予算を全面負担しており、今後はキャリアサポートセンターと校友会が共同で実施するよう所管を移す方向で検討する。
			継続	校友会事務局	本年度の卒業生支援講座については、卒業生の参加状況もよく目標を達成できた。次年度についても卒業生の求める企画と実施が求められるため、教職員全体で企画し盛り上げていく必要がある。
6 教育環境	1. 施設・設備等	○本校の教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	事務局長	■栗田静枝診療録管理普及基金より寄贈されたタブレット端末を活用するため、研修室と6階1教室にWi-Fi設備が導入された。また、30年度予算では第1PC室のリニューアルを行い、バリアフリー等他の整備計画は、必要性和予算の状況を見ながら進めていく。
	2. 学外実習、インターンシップ	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化を課題としており、関係者による情報共有と一層の連携が望まれる。	新規	CSC	■各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努める。また前年度の行った各対策を検証し、次年度に生かす。
			新規	医療秘書科	■月間報告書の内容を工夫する。 ■毎月の登校日設定の頻度やメニューを再考する。 ■Gmailを利用したフォロー方法を検討する。
			新規	医療マネジメント科	■キャリアサポートセンターとの連携を基本として、登校日、個別連絡・面談も活用して対応する。
	3. 防災・安全管理	○授業中の事故等に関する共通のマニュアルなどの整備が求められる。	継続	学科長会議	■学校安全管理マニュアル等を参考にして、簡易的な形式で作成する作業について、学務課と協力して実施する予定である。
			継続	学務課長	■事務局長が専門学校マニュアル案と学校法人の危機管理マニュアルとの整合性について検討中である。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
		○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続	学務課長	■平成29年度は、看護科学生全員と医療事務系学科学生希望者に対し、有償でインフルエンザ集団予防接種を行った。 ■また、看護科病院実習担当教員に対して、無償で予防接種を行った。それ以外の学生・教員に対しては、保健室だより等を通じて、接種の重要性を説く啓蒙を行った。
		○課題としている災害発生時の学内待機、近隣の被災者受け入れなどについては難しい面もあるが、引き続き近隣との連携をできることから整備を進めてほしい	継続	事務局長	■近隣との連携の前段階として学生・教職員の安全を確保する体制をまとめ、その上で被災者受け入れの条件や受け入れ後の安全・安心を確保するための体制を作成したい。
	6. 卒業生・社会人	■総評より： ○卒業生に向けてはキャリアアップを目指した転職支援などの情報提供など、何かあったら学校に相談できるという受け皿を広げていただければと思う。	新規	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも求人状況提供や就職相談など積極的に対応していく。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○本校ではホームページ上で積極的に情報公開を進めているが、高校における専門学校の理解が必ずしも進んでいないのが現状と言われている。より理解を深めるためには、例えば就職であれば就職データだけでなく、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供に向けた具体的な検討が望まれる。 ○新たに活動を開始した募集広報協議会については、年間計画を策定するなど、具体的な取り組みを明確にした継続活動が望まれる。	新規	広報室	高等学校に対する理解を深めるための方策は特に行えていないのが現状である。今後については、各学科の職業理解を深めてもらうためのチラシを順次作成し、高校訪問のツールとして活用したい。
			新規	募集広報協議会	募集広報協議会は年間計画を掲げ実施するまでに至らなかった。次年度は校長室主体で運営がなされることとなっている。
		■総評より： ○高校の先生に医療事務の仕事内容をもう少しアピールしてほしい。 ○高校の先生や保護者に向けた学科とその教育内容に関する情報提供にもっと工夫があっても良いのではないか。	新規	広報室	高度化、専門化に関しては高校ガイダンス、独自訪問のさいに特にアピールをしている。次年度からは、職業紹介チラシを持参し、医事系職種はアピールしていく。
		○医師事務技術専攻科は、本校の医療事務分野教育の高度化を目指した専攻科であることから、学内において工夫した募集活動が望まれる。	新規	医療秘書科	■平成30年度入学生からは入学前に学校案内書にて医師事務技術専攻科に関する情報を提供している。 ■平成29年度生は入学前に情報提供できておらず、入学後に学科紹介、職種説明等を実施した。 ■定期的にインフォメーションする機会を設け、事務局と協力して進学者を獲得する。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
		<p>○入学後、学力傾向を把握するため、共通基礎学力テストを実施し、教員向けの授業方法の検討資料としている。</p> <p>○この資料を就職指導にも生かすことを今後の課題としているが、分析の方法を更に工夫して有効に活用してほしい。</p>	新規	医療マネジメント科	■外部に対する募集活動は、広報室との連携が基本姿勢である。専攻科募集については、診療情報管理専攻科をより促進しつつ、医師事務技術専攻科の並立を検討する。
			新規	広報室	オープンキャンパスでは医師事務作業補助者の有用性について説明を行っている。また、募集概要掲示物の制作を担当し、校内数カ所に掲示を行った。今後も高校生に対して継続して有用性を説明していく。
			新規	教務委員会	■教務委員会では共通基礎学力テストの実施、分析、報告までを担当する。就職活動に活かすために必要なデータがあれば応じる準備はある。活用方法についてはキャリアサポートセンター、進路指導協議会、および各学科での検討課題と認識している。
			新規	進路指導協議会	■学校全体や学科毎の集計値による傾向把握とともに、学生個々のテスト結果と学業成績との関係性を確認する。
9 法令などの遵守	2. 個人情報	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■入学時や実習前などに指導を行っており、引き続き問題例等の情報収集を行い、適宜周知する。
			継続	学生委員会	■1か月に1回以上のペースで学生委員会メールを送信する。内容は保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、個人情報に保護に関する注意喚起を予定している。
	9 法令などの遵守 (3)学校関係者評価	<p>■総評より:</p> <p>○委員会の運営は、学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間がもっとあればよい。</p>	新規	自己点検委員会	<p>■委員会の最後の次第に「意見交換」を設定し、その日の設定議題に関わらない委員からの自由意見、提案の場を設ける。</p> <p>■平成29年度第3回の委員会から開始する。</p>
10 社会貢献・地域貢献	1. 社会貢献・地域貢献	○また、今後は、必要な規定や方針等を整備した上で、企業等と連携した教育プログラムの開発にも期待したい。	継続	校長	■字幕制作・速記者養成科など、新設の学科においては既に企業等と連携した教育プログラムの開発に着手しているが、専門課程以外の新規の教育事業においても、積極的に企業等と連携した教育プログラムの開発を推し進めたい。
			継続	事務局長	■30年度は介護福祉科・鍼灸医療科が主催する講座を実施する。次年度以降も講座内容、日程等の検討を行い、継続的に実施する。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題

2018/5/9
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1
	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の視点からも有意義なものであり、更に仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい	継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■学生委員会メールを活用して、2か月に1回程度および随時、ボランティア募集情報を送信する。 ■東専各が公開しているホームページ「ボラ活」にて、他校と共に本校のボランティア活動の様子を紹介する。年に1回か2回更新する予定。